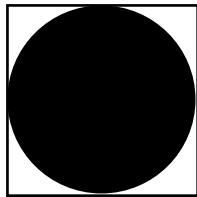


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 150

2017. 6

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 北川智久

E-mail: kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

「創造」概念をめぐって

事業局長 水島尚喜

先日、勤務先の大学で「創造性」をめぐるシンポジウムがあり、脳科学者の小泉英昭氏のお話を伺う機会を得ました。氏は、その中で神経科学のいくつかの実験内容を紹介されました。例えば、生まれてしばらくした子猫に眼帯をかけて数週間片目を覆うと、失明してしまうそうです。また、縦縞しか見えない環境で育てた子猫は、縦縞は見えるが、横線は見えなくなってしまうそうです。近年の脳科学では身体的な感性について、このような「臨界期」があることが徐々に明らかになりつつあります。以前、この巻頭言でご紹介したハーローのアカゲザルの実験群からも同様の推論が成り立ちます。（ただし、エートスの問題があることは、指摘した通りです。）このような動物実験のみならず、赤ちゃんから幼少期に派生する感性は、イメージを生み出し、人間の創造力の原点となっているということが、エビデンスベースで証明されようとしているという内容が、とても印象的でした。

他方、物質的世界に生きる人間存在の在り様を省みるまでもなく、子供期に触知可能な世界を感知、認識、操作、創造する活動の重要性は、今日のデジタル社会の中で、その重要性が一層増しています。そこから、感情や情操の教育もスタートしなければなりません。改正教育基本法以来、創造性の育成は全教科で強調されるようになりました。しかし、ここで立ち止まって考えてみる必要があります。ロマン主義的な創造概念ではなく、「リアルな創造のプロセス」についてです。子ども達は物質的な世界に生を受け、そこに自分自身の生きる場を形成します。造形教育では、能動的に自己の感性を発揮しながら、身を直接的に、物質的な世界と重ね合わせながら一人一人の子供達が、主体的に創造することに価値を置きます。皮膚感覚やマテリアルに派生する触覚的な感性、モノ世界の属性としての色、形等、さらにはそれらから派生するイメージ形成について造形教育は、多くの発言すべき内容があることを、強く認識した次第です。

第51回 日本美術教育研究発表会2017 案内

1. 日時 平成29年10月15日（日） 9時～17時30分（予定）
2. 会場 東京家政大学板橋キャンパス 16号館
〒173-8602東京都板橋区加賀 1-18-1
3. 主催 公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
4. 後援 文部科学省（申請中）

公益社団法人 日本美術教育連合主催講演会

新学習指導要領とこれからの図画工作科、美術科

講師：岡田京子先生（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

東良雅人先生（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

日時：平成29年4月23日（日）15：00～

場所：聖心女子大学宮代ホール

司会：大坪圭輔

平成29年4月23日、聖心女子大学宮代ホールにおいて、第7回定時総会終了後、岡田京子、東良雅人両教科調査官をお招きし、「新学習指導要領とこれからの図画工作科、美術科」と題する講演会を開催いたしました。新学習指導要領についての理解を深め、これからの授業実践についての研究、準備に取り組む契機となりました。

■岡田京子 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

答申では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくるという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現のために必要な点を示し、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」さらに「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」「何が身に付いたか」「実施するために何が必要か」という点で改善することが求められた。

今回の改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理し、育成を目指す資質・能力を明確にした。特に複数の教科を指導される先生が多い小学校では、教育課程全体を見つつ、それぞれの教科等の指導を充実することにつながると考えられる。

図画工作科の教科の目標では、図画工作科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である、「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成を目指すことを示した。図画工作科の「造形的な見方・考え方」は、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」である。学年の目標も同じように三つの柱で整理している。

（１）「知識・技能」に関する目標では、前半が「知識」、後半が「技能」に関する目標であり、〔共通事項〕アに対応している。「技能」については「Ａ表現」（２）ア、イに対応している。（２）「思考力、判断力、表現力等」に関する目標は、「Ａ表現」（１）ア、イと「Ｂ鑑賞」（１）ア及び〔共通事項〕（１）イに対応している。（３）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標では、つくりだす喜び、感性、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度、豊かな情操について示している。教科の目標（１）、（２）、（３）には「創造」とし、図画工作科の学習が造形的な創造活動であることを示している。

内容は「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」及び〔共通事項〕とも、三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、構成し直した。「Ａ表現」では、「思考力、判断力、表現力等」と「技能」の観点から整理して示し、造形遊びをする活動と絵や立体、工作に表す活動の指導事項の違いを明確に示した。「Ｂ鑑賞」では、「思考力、判断力、表現力等」の観点から整理して示した。〔共通事項〕では、「知識」と「思考力、判断力、表現力等」の観点から整理して示し、さらに内容の取扱いに、〔共通事項〕ア（知識）の指導に当たった配慮事項を示した。

構造は、資質・能力の整理を踏まえ、今回大きく変わった。「Ａ表現」には（１）と（２）の二つの項目を設けているのは、現行の学習指導要領と同じであるが、今回の改訂では、（１）は、「Ａ表現」

を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」として、発想や構想に関する項目、(2)は、「A表現」を通して育成する「技能」に関する項目という構成とした。内容の取扱いにおいて、個性を生かした内容の取扱い、児童の思いを大切にしたい指導、互いのよさや個性など認め尊重し合うようにする指導などを示した。子供たちの学習の質を捉える目を持ち、子供をしっかり受けとめながら指導することが大切である。

■東良雅人 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

中学校は義務教育最後の段階として、社会に出ていく子どもたちにしっかりと力を与える責任がある。答申にも示されているように、社会に開かれた教育課程の実現を重視し、美術の関係者だけが理解できる美術の学習であってはならない。社会と向き合い自ら道を切り開いて行く資質・能力とは何かを明らかにし、学校教育の内容が社会と共有されていくことが肝要である。必修教科の美術として目標の趣旨を理解するとともに、この中でどのような授業を実践していくのか、今回の改訂の次期の改訂も見据えて、資質・能力の育成を目指した美術の学びについて考える必要がある。今回の新学習指導要領は学習の全体像を示す「学びの地図」であり、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理することで他教科の理解も深まるようになった。答申には現行学習指導要領における成果が示されており、その更なる充実が求められ、高等学校においても〔共通事項〕を設定する方向で検討が進んでいる。

現行学習指導要領の目標の文章は一文で示されているが、今回は三つの柱で整理されている。これをそれぞれの要素として理解するだけではなく、三つが連動するイメージで理解することが重要である。例えば人に中学校美術科で何を学んだかと尋ねると、ポスターや木彫などやったことは言えるが、どのような学びがあったかは答えられないことが多い。作品を制作するだけで中学校の三年が終わっていないだろうか。一人一人の生き方や日常生活の中で美術の働きを生かすことのできる様々な学びの扉との出会いが大切である。内容構成としては全体として美術で育むべき資質・能力を一層明解にするとともに、各学年の「3内容の取扱い」を新設し、それぞれの学年の学びを明示した。「造形的な見方・考え方」については、「学びの地図」を渡すだけではなく、その使い方を知っていることが重要で、学んだ資質・能力を生徒が活用していけるようにすることが肝要である。

「第1目標、(1)」では、前半が知識を後半が技能に関することを示している。「知識」については、〔共通事項〕に示し、さらに「内容の取扱い」において配慮事項を具体的に提示している。これらは「生徒が造形を豊かに捉える視点をもてるように」することが重要であって、「実感的に理解できるようにすること」を目指している。単なる暗記としての知識ではないことに留意してほしい。また、〔共通事項〕のAを「木を見る視点」とするならばBは「森を見る視点」と言えるものとなっている。

「第1目標、(2)」は「思考力、判断力、表現力等」を示しているが、「主題を生み出し豊かに発想し構想を練る」表現にかかわる部分と、「美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める」鑑賞にかかわる部分から成り、その前文の「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きについて考える」は、「発想や構想に関する資質・能力」と「鑑賞に関する資質・能力」の双方に重なる資質・能力を示している。「B鑑賞」においても資質・能力を育成することを一層明確にし、「A表現、(1)、ア」の「絵や彫刻などに表現する活動」が、「B鑑賞、ア、(ア)」と、「A表現、(1)、イ」の「デザインや工芸などに表現する活動」が「B鑑賞、ア、(イ)」と関連するようにわかりやすく整理した。そして、「第1目標、(3)」が「学びに向かう力・人間性等」を示している。また、「言語活動」については、「3内容の取扱い、(2)」に示し、鑑賞だけではなく表現においても充実を図ることとした。

今回の改訂は、全体として、子ども達の豊かな資質・能力を伸ばすことを主眼としている。学ぶ存在としての子ども達であるとの理解の上に、学びは創造活動の全過程にあり、子どもの行為をしっかりと受け止め、子どもの学びを見とることが大切である。

(文責 大坪圭輔)

平成 28 年度 事 業 報 告

平成28年

- 4月24日（日） 第6回定時総会及び講演会開催 会場：聖心女子大学400番教室
講演 「これからの美術教育の在り方を考える
－中央教育審議会教育課程企画特別部会の審議などから－」
三浦浩喜先生 福島大学理事・副学長
中央教育審議会教育課程企画特別部会委員
〔総会〕全議案承認
〔講演〕参加者 約110名
第1回理事会開催（役員人事について）会場：聖心女子大学
- 5月13日（金） 事業局主催「造形・美術教育力養成講座〈第Ⅴ期〉」準備会開催
- 6月 日本美術教育連合ニュースNo.147発行
- 6月19日（日） 第2回理事会・第1回運営委員会開催 会場：東京家政大学
- 8月22日（月） 造形・美術教育力養成講座〈第3期全8回〉開催 会場：聖心女子大学
～23日（火） ・海外美術教育ワークショップ 受講者20名
- 8月28日（日） 第3回理事会・第2回運営委員会及び論集編集委員会開催
会場：東京家政大学
- 9月 日本美術教育連合ニュースNo.148発行
- 10月16日（日） 第50回日本美術教育研究発表会開催 会場 東京家政大学
・発表者34組42名 参加者112名
・第50回記念式典及び同懇親会開催 懇親会出席者63余名
会計監査（前期） 北澤俊之監事、宮坂元裕監事 場所：東京家政大学
- 11月20日（日） 第4回理事会・第3回運営委員会及び論集編集委員会開催
会場：東京家政大学
- 12月4日（日） 第5回理事会・第4回運営委員会及び論集編集委員会開催
会場：東京家政大学

平成29年

- 1月22日（日） 第6回理事会・第5回運営委員会及び論集編集委員会開催
会場：武蔵野美術大学新宿サテライト
造形・美術教育フォーラム
「中教審答申を読む－美術教育連絡協議会提言書－」開催 会場同上
・小野康男先生 大橋功先生 司会：大坪圭輔
・参加者約60名
- 2月 日本美術教育連合ニュースNo.149発行
・第7回定時総会開催の告知
- 3月12日（日） 第7回理事会・第6回運営委員会開催 会場：東京家政大学
・総会議案の審議
- 3月31日（金） 日本美術教育研究論集2017No.50 発行
- 4月8日（土） 会計監査（後期） 北澤俊之監事、宮坂元裕監事 会場：本郷事務所
理事会構成員への監査報告及び第7回定時総会議案の配信及び最終確認

(1) 貸 借 対 照 表

平成29年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	568,462	1,025,594	△ 457,132
流動資産合計	568,462	1,025,594	△ 457,132
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	2,600,000	2,600,000	0
図 書	2,500,000	2,500,000	0
基本財産合計	5,100,000	5,100,000	0
(2) 特定資産			
新事業準備預金	31,015	30,103	912
特定資産合計	31,015	30,103	912
(3) その他固定資産			
敷金	60,000	60,000	0
その他固定資産合計	60,000	60,000	0
固定資産合計	5,191,015	5,190,103	912
資産合計	5,759,477	6,215,697	△ 456,220
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	985,832	856,344	129,488
借入金	600,000	650,000	△ 50,000
前受金	120,000	96,000	24,000
預り金	27,567	27,567	0
流動負債合計	1,733,399	1,629,911	103,488
負債合計	1,733,399	1,629,911	103,488
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	4,026,078	4,585,786	△ 559,708
(うち基本財産への充当額)	(3,995,063)	(4,555,683)	(△ 560,620)
(うち特定資産への充当額)	(31,015)	(30,103)	(912)
正味財産合計	4,026,078	4,585,786	△ 559,708
負債及び正味財産合計	5,759,477	6,215,697	△ 456,220

(2) 正味財産増減計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	912	1,169	△ 257
特定資産運用益			
特定資産受取利息	0	4	△ 4
受取入会金			
受取入会金	70,000	57,000	13,000
受取会費			
受取正会員会費	1,028,000	930,000	98,000
受取賛助会員会費	140,000	95,000	45,000
事業収益			
論集広告料	160,000	160,000	0
論集掲載料	571,500	657,500	△ 86,000
受取補助金等			
受取寄付金	30,000	188,000	△ 158,000
受取利息	14	25	△ 11
雑収益	188,000	61,000	127,000
経常収益計	2,188,426	2,149,698	38,728
(2) 経常費用			
事業費			
印刷製本費	1,159,787	1,018,961	140,826
通信運搬費	81,011	128,624	△ 47,613
諸謝金	158,000	0	158,000
資料費	238,468	0	238,468
会議費	187,663	18,057	169,606
地代家賃	273,000	0	273,000
計算書類作成費	209,951	0	209,951
雑費	4,642	2,402	2,240
管理費			
会議費	205,259	193,742	11,517
旅費交通費	4,030	7,190	△ 3,160
通信運搬費	13,742	58,384	△ 44,642
地代家賃	117,000	452,600	△ 335,600
消耗品費	1,080	3,905	△ 2,825
計算書類作成費	89,979	291,600	△ 201,621
雑費	4,522	5,132	△ 610
経常費用計	2,748,134	2,180,597	567,537
当期経常増減額	-559,708	-30,899	△ 528,809
当期一般正味財産増減額	-559,708	-30,899	△ 528,809
一般正味財産期首残高	4,585,786	4,616,685	△ 30,899
一般正味財産期末残高	4,026,078	4,585,786	△ 559,708
II 正味財産期末残高	4,026,078	4,585,786	△ 559,708

(3) 財務諸表に対する注記

1. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
図 書	2,500,000	0	0	2,500,000
小計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産				
新事業準備預金	30,103	912	0	31,015
小計	30,103	912	0	31,015
合 計	5,130,103	912	0	5,131,015

2. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	1,495,063	1,104,937
図 書	2,500,000	0	2,500,000	0
小計	5,100,000	0	3,995,063	1,104,937
特定資産				
新事業準備預金	31,015	0	31,015	0
小計	31,015	0	31,015	0
合 計	5,131,015	0	4,026,078	1,104,937

(4) 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
	図 書	2,500,000	0	0	2,500,000
	基本財産計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産	新事業準備預金	30,103	912	0	31,015
	特定資産計	30,103	912	0	31,015

(5) 財 産 目 録

平成29年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物置等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金預金			
	現 金	手元保管	運転資金として	47,829
	通常預金	ゆうちょ銀行	運転資金として	131,140
	振替貯金	ゆうちょ銀行	運転資金として	389,493
流動資産合計				568,462
(固定資産)	基本財産			
	定期預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	運用益を公益目的事業及び法人会計に使用する。	2,600,000
	図 書	山形文庫 2,003冊 筑波大学芸術学系保管	調査研究の資料として活用している。	2,500,000
	特定資産			
	新事業準備預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	運用益を法人会計の収入に活用する。	31,015
	その他固定資産			
	敷金	文京区本郷2-30-14	事務所敷金	60,000
固定資産合計				5,191,015
資産合計				5,759,477
(流動負債)	未払金	上武印刷㈱	日本美術教育研究論集第50号 印刷代	861,840
		上武印刷㈱	日本美術教育研究論集第50号 郵送料	20,375
		上武印刷㈱	連合ニュース149号 印刷代	78,570
		上武印刷㈱	連合ニュース149号 郵送料	19,768
			連合ニュース148号 郵送料不足分	5,279
	未払金 計			985,832
	借入金	宮坂元裕	運転資金	600,000
	借入金 計			600,000
	前受金		平成29年度受取正会員会費10件	60,000
			平成30年度受取正会員会費5件	30,000
			平成31年度受取正会員会費2件	12,000
			平成32年度受取正会員会費2件	12,000
			平成33年度受取正会員会費1件	6,000
	前受金 計			120,000
	預り金	本郷税務署	小林公認会計士事務所決算報酬 源泉所得税	27,567
流動負債合計				1,733,399
負債合計				1,733,399
正味財産				4,026,078

監査報告書

平成29年4月8日

公益社団法人 日本美術教育連合
理事長 大坪 圭輔 殿

公益社団法人 日本美術教育連合

監事 北澤 俊之 

監事 宮坂 元希 

私たち監事は、平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）における事業報告等、財務諸表等及び理事の職務執行状況の監査を行いましたので、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告等（事業報告及びその附属明細書）について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表、正味財産増減計算書、これらの附属明細書及び財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告等（事業報告及びその附属明細書）は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 財務諸表等（貸借対照表、正味財産増減計算書、これらの附属明細書及び財産目録）は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

第4期 活動方針 平成28年度中間報告

1. 活動を円滑に行うに必要な収支の安定、拡大を検討する。
 - ・検討継続中であるが、会員数は少数ながら増加した。今後さらに会員募集の広報を強化する。
2. 学習指導要領改訂期にあることなどを考慮し、会員をはじめとして社会にとってより有益な情報の発信を強化する。
 - ・新たなホームページを立ち上げるとともに、ニュースの内容の充実を図った。今後はホームページのコンテンツの拡充を図る。
3. 「美術教育連絡協議会」の参加団体と共同し、図画工作科・美術科における学習の重要性を社会に向けて主張する。
 - ・美術教育連絡協議会で積極的に連合としての役割を果たし、平成27年度の要望書に続いて、本年度は提言書を文部科学省に提出した。また、本要望書に基づいたフォーラムを開催した。
4. 美術教育関係諸団体との情報交換、協調、協力関係を強化する。
 - ・美術教育連絡協議会においては、協議会の確認に基づき、関係団体との協力関係を維持発展させる。
5. 日本美術教育研究発表会の拡充を進める。
 - ・本年度は50回記念という節目の発表会であり、発表者及び参加者共に増加した。公益事業としての研究発表会であると意義を広報し、さらなる発表数の増加を目指すとともに、その質を担保する方法についても検討を進める。
6. 造形・美術教育力養成講座の拡充を進める。
 - ・第3期となり夏の研修講座として定着してきている。時代性と教育現場の実情を俯瞰した養成講座の開発と広報を一層進めるようにする。
7. InSEAにおける日本の代表としての歴史を踏まえ、海外美術教育関係者及び団体との関係を強化する。
 - ・本連合会員から次期InSEAアジア地区評議員を再度選出することができた。また、2017大邱世界会議に向けて、実行委員会の連絡を密にした。同世界会議参加ツアーの企画は成立しなかったが、8月現地での国際交流に勉め、その報告を充実させるようにする。

平成 29 年度 事 業 予 定

平成29年

- 4月23日（日） 平成28年度第8回理事会・第7回運営委員会
会場：聖心女子大学
第7回定時総会及び講演会 会場：聖心女子大学宮代ホール
聖心女子大学学長挨拶
講演：「新学習指導要領とこれからの図画工作科、美術科」
岡田京子文部科学省教科調査官
東良雅人文部科学省教科調査官
- 5月 事業局主催「造形・美術教育力養成講座〈第4期〉」準備会
- 6月 日本美術教育連合ニュースNo.150
- 6月4日（日） 平成29年度第1回理事会・運営委員会 会場：東京家政大学
- 8月21日（月） 造形・美術教育力養成講座〈第4期〉会場：聖心女子大学
～22日（火）
- 8月27日（日） 平成29年度第2回理事会・運営委員会及び論集編集委員会
会場：東京家政大学
- 9月 日本美術教育連合ニュースNo.151
- 10月15日（日） 第51回日本美術教育研究発表会2017
会場：東京家政大学
会計監査（前期） 北澤俊之監事、宮坂元裕監事
- 11月19日（日） 平成29年度第3回理事会・運営委員会及び論集編集委員会
会場：東京家政大学
- 12月10日（日） 平成29年度第4回理事会・運営委員会及び論集編集委員会
会場：東京家政大学
- 12月 第5期役員選挙

平成30年

- 1月21日（日） 平成29年度第5回理事会・運営委員会及び論集編集委員会
造形・美術教育フォーラム
会場：未定
- 2月 日本美術教育連合ニュースNo.152
- 3月11日（日） 平成29年度第6回理事会・運営委員会 会場：東京家政大学
- 3月31日（土） 日本美術教育研究論集2018No.51発行
- 4月7日（土） 会計監査（後期） 北澤俊之監事、宮坂元裕監事
会場：本郷事務所
- 4月7日（土） 平成29年度第7回理事会 総会議案審議
会場：本郷事務所

-
- 4月22日（日） 第8回 定時総会及び講演会

収 支 予 算 書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,000	4,000	0
基本財産受取利息	4,000	4,000	0
受取入会金	30,000	30,000	0
受取入会金	45,000	30,000	15,000
受取会費	1,290,000	1,290,000	0
受取正会員会費	1,200,000	1,140,000	60,000
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0
事業収益	500,000	500,000	0
受取論集広告料	200,000	200,000	0
受取論集掲載料	300,000	300,000	0
受取補助金等	301,000	301,000	0
受取寄付金	300,000	300,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	2,125,000	2,125,000	0
(2) 経常費用			
事業費	1,062,000	1,022,000	40,000
雑給	0	0	0
消耗品費	2,000	2,000	0
印刷製本費	700,000	700,000	0
通信運搬費	130,000	200,000	△ 70,000
諸謝金	100,000	100,000	0
資料費	115,000	5,000	110,000
会議費	15,000	15,000	0
管理費	1,100,000	972,000	128,000
給料手当	0	0	0
会議費	200,000	200,000	0
旅費交通費	10,000	10,000	0
通信運搬費	60,000	40,000	20,000
賃借料費	550,000	442,000	108,000
消耗品費	5,000	5,000	0
印刷製本費	40,000	40,000	0
支払負担金	30,000	30,000	0
計算書類作成費	200,000	200,000	0
雑費	5,000	5,000	0
経常費用計	2,162,000	1,994,000	168,000
当期経常増減額	-37,000	131,000	△ 168,000
当期一般正味財産増減額	-37,000	131,000	△ 168,000
一般正味財産期首残高	4,026,078	4,585,786	△ 559,708
一般正味財産期末残高	3,989,078	4,716,786	△ 727,708
II 正味財産期末残高	3,989,078	4,716,786	△ 727,708

■InSEA Newsletter 2017年5月号

InSEA（国際美術教育学会）会員には毎月Newsletterが配信され、各国の芸術教育の状況や研究大会、イベントなどの情報が届きます。今回は5月号の主な記事を紹介します。

①UNESCO International Arts Education Week（ユネスコ国際芸術教育週間）

InSEA（国際美術教育学会）は、ユネスコ創設期より公認団体として加盟しています。ユネスコは年間を通して様々なキャンペーンを展開しますが、その中の一つに「国際芸術教育週間」があります。2017年は5月22日～28日がその期間でした。

②研究大会等の開催

- ・ 7th World Arts Alliance for Education Conference <http://engagingwithcommunities.org.nz/>
2017年11月22日～25日、ニュージーランド、オーランド大学
- ・ The European regional InSEA Congress <http://taide.aalto.fi/fi/research/insea/>
2018年6月18日～28日、フィンランド、フィンランド大学

③国際ユネスコNGOフォーラム

リヤドで開催された「国際ユネスコNGOフォーラム」にInSEA代表が参加し、世界が直面する変革の時期に、若い人々に芸術教育が果たす役割の重要性について提案しました。約70か国から400以上のNGOと2100人以上のNGO代表が参加しています。

④第35回InSEA（国際美術教育学会）世界会議 2017 大邱大会

2017年8月7日～11日、韓国、大邱Exhibition and Convention Center
参加申込〆切：2017年7月30日 <http://www.insea2017.org/index.php>

■『InSEAジャーナル』定期購読のお知らせ

InSEA（国際美術教育学会）は下記のようなジャーナルを刊行しています。個人や図書館などでの定期購読も可能ですので、ご検討ください。

誌名 international journal of education through art

特徴 ・ 美術教育の実践、広がり、解釈のあり方を評価

・ 60か国以上の300以上の大学で利用され、高く評価されている国際的研究資料

・ 国際美術教育学会誌

・ スコーパス（世界最大級の引用文献データベース）目録に掲載：Emerging Sources Citation Index（新しい注目分野の学術誌を収録する文献データベース）

刊行 & ISSN 年3回刊 ISSN1743-5234 オンライン版のISSN2040-090X

定期購読代金 図書館等施設（紙とオンライン）£242/\$387、（オンラインのみ）£199/\$317

個人購読 £42/\$77

注文先

Customers in the UK, EU or RoW, please contact: Turpin Distribution, Pegasus Drive, Stratton Business Park, Biggleswade, Bedfordshire, SG18 8TQ, UK

Tel: +44 (0) 1767 604951 | Fax: +44 (0) 1767 601640

E-mail: custserv@turpin-distribution.com | Web: <http://ebiz.turpin-distribution.com/>

事業局長 水島 尚喜

幼保・小・中・高・大学教員、学生、院生、美術館関係者、画塾経営者、連合会員の皆様へ
公益社団法人日本美術教育連合主催 造形・美術教育力養成講座の御案内
第3期2次目
【海外美術教育ワークショップー明日の授業が変わるー】

－ご挨拶－

「日本美術教育連合」は内閣府の承認を得た造形・美術教育にかかわる唯一の公益社団法人です。公益事業として、連続講座を企画し、多くの方々から好評を博しています。今期は、「海外美術教育ワークショップ」をテーマとして、気鋭の講師陣が担当いたします。どうぞ、奮ってご参加ください。

(公益社団法人日本美術教育連合 理事長 大坪圭輔)

主旨：子どもと造形表現をめぐって理解を深め、講義と演習を通して教育実践力を高める8回連続の講座を行ないます。すべての講座を満了し、一定の規定を満たした参加者には、公益社団法人日本美術教育連合からの「認定書」を授与します。

日 程：平成29年8月21日（月）、8月22日（火）の2日間（90分×8回）

参加方法等：随時受付。参加ご希望の方は、以下サイトの参加申し込みフォームよりお申し込みください。（日本美術教育連合HP掲載）尚、下記QRコードからのアクセスもできます。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScvcnXLafNuFsJzo_-aigrkNynlqX6_R8cVppO_kKOLrpy4A/viewform

参 加 費：一講座1,500円当日払い（日本美術教育連合会員・学生・院生は、1,000円）

会 場：〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心女子大学2号館4階

ワークショップルーム／造形室

交通アクセス参照：<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/access/>



公益社団法人日本美術教育連合主催
 <第3期>造形・美術教育力養成講座

海外美術教育ワークショップ -明日の授業が変わる-

	講 座 名 ・ 日 時	参加等
1	「アメリカにおける表現と鑑賞の往還からの授業づくり」 講師：小林貴史（東京造形大学 教授） 北澤俊之（東洋大学 准教授） ◆ 8月21日 月曜日 (9:00～10:30)	
2	「フランス公立学校の美術の授業とInSEAヨーロッパの活動について」 講師：藤崎典子（元公立小・中学校 教諭） ◆ 8月21日 月曜日 (10:50～12:20)	
3	「フィンランドにみる21世紀型美術教育の今」 講師：結城孝雄（東京家政大学 教授） 畑山未央（東京家政大学 助教） ◆ 8月21日 月曜日 (13:30～15:00)	
4	「スウェーデン・フィンランド・ロシアの著名美術館教育事情」 講師：山口喜雄（元宇都宮大学 教授） ◆ 8月21日 月曜日 (15:20～16:50)	
5	「美術鑑賞教育内外事情 2005―2015 対話から探求」 講師：奥村高明（聖徳大学 教授） ◆ 8月22日 火曜日 (9:00～10:30)	
6	「マインドピクチャーから批評学習まで：英国の不思議な授業実践」 講師：直江俊雄（筑波大学 教授） ◆ 8月22日 火曜日 (10:50～12:20)	
7	「PISA型学力と図工美術工芸の題材開発」 講師：大坪圭輔（武蔵野美術大学 教授） ◆ 8月22日 火曜日 (13:30～15:00)	
8	「紙工作の教材開発 -フレーベルの基本的な考え方に基づいて-（演習）」 講師：仲瀬律久（聖徳大学 名誉教授） ◆ 8月22日 火曜日 (15:20～16:50)	

●受講者氏名／所属等	
●住所	
●電話番号	
●メールアドレス	

* 参加当日、ご記入の上提出して下さい。個人情報として、厳重に管理いたします。

第51回 日本美術教育研究発表会 2017

【公益社団法人第7回 一次案内】

公益社団法人 日本美術教育連合理事・研究局長 山口 喜雄

歴史的な1965年InSEA東京世界大会の精神を反映し、「国際理解と美術教育の前進」という趣旨で第1回日本美術教育研究発表会を1966年に開催、今年は第51回で2012年公益社団法人化以後の第7回です。児童教育・造形表現・服飾美術等の学科を擁し、造形表現や教員養成にも傾注している東京家政大学にて開催いたします。

本発表会の特色は、美術教育の理論研究を軸に実践研究をも重視してきたことです。従前の口頭発表（発表20分＋協議5分）の他に、①モジュール口頭発表（発表30分＋協議25分）3コマ、②研究ノート、③発表会改善アンケート（今年度運営反省と次年度企画提案）、以上三つを継続実施いたします。

これまでの研究発表者は、関東圏はじめ北海道・東北・近畿・四国・九州など各地の小・中・高・特支・短大・大の教員、美術館学芸員・研究所員、行政職、画塾、院生・学生など、韓国・中国・メキシコの教員・留学生など様々でした。熱意ある方々による美術教育に関する研究発表や参加をお待ちしています。

参 加 要 項

- 開催日時： 2017（平成29）年10月15日（日） 9時～17時30分（予定）
- 会 場： 東京家政大学16号館 〒173-8602東京都板橋区加賀1-18-1
経路は同大学HP（<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/about/access/tabid/99/index.php>）を参照下さい。
- 参加費等： 参加費は500円、『日本美術教育研究発表会2017概要集』をお渡しいたします。
事前申込みは不要、会員以外の方でも参加できます。
- 主 催： 公益社団法人 日本美術教育連合
- 後 援： 文部科学省（申請中）

研究発表申込WEB入力期限 8/20（日）23:59

- 発表資格： 共同発表者も含め、本会会員であること。入会には会員1名の推薦が必要です。
新規入会希望者は、「研究発表〈口頭発表〉申込書」と共に、「入会申込書」を次のURL、<http://insea-in-japan.or.jp/>から印刷し、記載されている事務局長宛てにお送りください。
身近に会員がいない場合は、下記の間合先に早めにご相談下さい。
- 発表時間： 入会時に、入会金3,000円および本年度会費6,000円の郵便振り込みが必要です。
〈通常口頭発表〉20分＋質疑応答5分 移動・準備5分〔発表者総数により変更有〕
〈モジュール発表：3組募集〉30分＋質疑応答25分 移動・準備5分〔役員会で選定〕
- 発表区分： A群・B群・C群の3区分があり、研究発表申込WEBサイトにどれかを明記して下さい。
A群：理論・実践研究論文（査読あり、投稿時に英文のサマリーが必要です）
B群：実践研究報告等（査読あり、題目のみ英文表記）
C群：研究ノート（査読あり、題目のみ英文表記）
- 発表方式： 申込時に希望機器を明記して下さい。
1）液晶プロジェクター（HD-D-Sub15ピン対応）、2）実物投影機、3）機器を使用しない
配布用のレジュメまたは資料等は、50～70部程度ご用意下さい。
- 発表申込： 申込WEBサイトへの入力期限厳守：2017年8月20日（日）23時59分
WEBサイト名「第51回 日本美術教育研究発表会2017研究発表申込」
●<https://ssl.kokucheese.com/event/entry/466992/>サイトを開き、必須項目「＊」を記入します。
詳細は、別頁の「第51回 日本美術教育研究発表会2017 研究発表申込方法」を参照。
- 概要文： 【題目・所属・氏名・概要文600字】E-mail 送付先：要注意：「東京家政大学」と異なります。
研究局員のtachikawa@kasei-gakuin.ac.jp立川泰史〔東京家政学院大学〕宛
E-mailの送信後7日後以内に受付確認の返信がない場合は、念のため再度送信して下さい。
郵送による概要文の受付はできません。電話対応もできません。
E-mailの見出しに「●連合発表2017申込（発表代表者氏名）」とお書き下さい。

備考・問合先

- 参照URL： <http://insea-in-japan.or.jp/>（新設：公益社団法人 日本美術教育連合HP）を参照。
- 発表時程： 9月下旬発行の『連合ニュース151号』に掲載し、会員に送付する予定です。
- 問 合 先： 研究局長・山口喜雄 E-mail：nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

第51号 日本美術教育研究論集 2018

【投稿および掲載要項】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

- 投稿条件： 第51回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第51号研究論集2018』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の（１）～（５）の条件を全て満たしたものに限りします。
- （１）投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
 - （２）投稿原稿が、研究論集の要項に適合していて、書式・分量等が守られていること。
 - （３）掲載料を期日（2017年11月8日）までに納入していること。
 - （４）作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
 - （５）引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
- 論文査読： A群（理論・実践研究論文）・B群（実践研究報告等）・C群（研究ノート）ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群・C群ともに、本文および図版（写真・表・図等）等、英文サマリー（A群のみ）を含め、下記の文字数を守って下さい。
- 1頁分は、A 4横組2段 23字×44行×2段＝2024字です。
- 第1頁のみ第1行目から第6行目（2段取り）までに、題目（副題）・所属・氏名を記載し、本文との間に2行（2段取り）のスペースを空け、本文は、10行目から書き始めます。なお、題目の英語表記ならびに所属・氏名のローマ字表記もこれに含めます。
- 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
- 大項目 1. 2. 3. [全角数字] …、中項目（1）（2）（3）…、小項目①②③…。
- 掲載要項： A群・B群・C群ともに原則として8頁（C群のみ6頁も可）とし、掲載料は一般（給与を得ている内地留学生等を含む）15,000円、院生・学生8,000円です。
- 2頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
- 増頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
- 原稿は、①ワープロ等で印字し、②データを保存したCD-R等を合わせて提出すること。
- CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
- カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
- 抜き刷り（一律50部）は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。（抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。）
- 掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書（利用明細書のコピー等）を同封して下さい。
- 口座記号番号：00170-1-86036（右寄せで記入）郵便振込です。
- 加入者名：公益社団法人日本美術教育連合
- ご依頼人：（〒）おところ・おなまえ・電話番号・所属
- 通信欄：例 掲載料15,000円（一般、8頁）+増頁分6,000円（2頁増の場合）＝21,000円（計10頁）
- 抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。
- ※査読の結果、掲載に至らない場合は10,000円（院生・学生は5,000円）のみ返金となります。抜き刷りの料金については、全額返金します。

〈投稿原稿〉11/ 8（水）必着

- 投稿メ切： 2017（平成29）年11月8日（水）必着。A群・B群・C群とも、
- ①正1部と副4部（コピー可）計5部、②原稿CD-R等、③投稿エントリーシート、④送金証明書（エントリーシートに貼付）を提出して下さい。
- 投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。
- ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。
- なお、発行日は2018（平成30）年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄 宛

連絡・問合せ

- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。
- 問 合 先： 研究論集編集委員長 小林貴史：042-637-8111（代） ktakashi@zokei.ac.jp（東京造形大学）

公益社団法人 日本美術教育連合 入会申込書（学生・一般）

○で囲んでください

公益社団法人 日本美術教育連合
理事長 大坪圭輔 様

日本美術教育連合への入会を申し込みます。

平成 年 月 日 ふりがな

氏 名 印

※至急にご連絡を差し上げる場合があります、可能であれば携帯電話でお願いいたします。

■ 現住所 〒

電話 FAX

■ 勤務先・職名

学生は学校名・専攻・学年

所在地 〒

携帯電話 FAX

■ e-mail

上記の方を会員として推薦いたします。

平成 年 月 日

会員氏名 印

※送付先・問い合わせ先 〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1 東京家政大学 家政学部児童教育学科
初等教育第7研究室内 公益社団法人 日本美術教育連合事務局 結城孝雄宛
電話・FAX 03-3961-5594（初等教育第7研究室直通）
e-mail: takaoyuki@tokyo-kasei.ac.jp

※送付と同時に以下の要領で入会金と年会費の郵便振り込みをお願いいたします。

口座記号番号：00170-1-86036（右寄せ）

加入者名：公益社団法人 日本美術教育連合

通 信 欄：入会金 3,000 円+年会費 6,000 円=9,000 円

依 頼 人：ご住所・お名前・電話番号

※上記個人情報、厳重に管理され、本法人の活動以外には使用いたしません。

第51回 日本美術教育研究発表会2017 研究発表申込方法

公益財団法人 日本美術教育連合研究局

申込方法を昨年度から新システムに改めました。① ② ③ の手順で申し込みます。

- ① WEB上のサイト <https://ssl.kokucheese.com/event/entry/466992/> をクリックし、下記画面「第51回 日本美術教育研究発表会2017 研究発表会申込」を開きます。



- ② 「*」の必須項目を全て記入します。右サイドは記入例等です。

*は必須項目です。

* お名前

* ふりがな

* 懇親会
参加しない ▼

* メールアドレス

* メールアドレス(確認)

* 郵便番号

(ハイフンなしの7桁で入力してください。例: 5530001)

* 都道府県
▼

* 住所

(市区町村、丁目、番地までを入力してください)

ビル・マンション名

(お住まいのビル、マンション名を入力してください)

* TEL

(ハイフンありで入力してください。例: 06-1234-5678)

FAX

(ハイフンありで入力してください。例: 06-1234-5678)

* 発表時使用機器 (連合ニュース参照)
▼

* 日本美術教育連合の会員資格の有無
▼

* 論集掲載時の発表区分の予定
▼

* お名前 (発表代表者のみ/和文)

例) 美術 花子

* ふりがな

例) びじゅつ はなこ

* 懇親会【参加しない、参加する】選択

(一般 2,500 円、学生 2,000 円/当日受領)

* メールアドレス

(発表代表者のみのアドレス)

* メールアドレス(確認)

* 郵便番号

例) 1130033 (ハイフンなし7桁)

* 都道府県【掲載都道府県名】選択

* 住所 (発表代表者の住所)

例) 文京区本郷 2-30-14

ビル・マンション名

例) 文京ビル 206 号

* TEL (発表代表者の電話)

例) 03-5555-0000

FAX

例) 03-5555-1111

* 発表時使用機器

【液晶プロジェクター、実物投影機、機器を使用しない】選択

* 日本美術教育連合の会員資格の有無

【会員である、入会申込書を事務局結城に送る】

* 論集掲載時の発表区分の予定

【A群、B群、C群】選択

【訃 報】

高山正喜久先生ご逝去

本公益社団法人日本美術教育連合の名誉会員、高山正喜久先生が、去る平成29年2月10日ご逝去されました。99歳でした。

高山先生は、1918年に岡山県で生まれました。岡山県師範学校、東京高等師範学校、東京文理科大学文学部、早稲田大学第二理工学部卒業。東京教育大学、筑波大学教授、桑沢デザイン研究所所長。

高山先生は、終世「発想」についてご研究されていきました。その著書「立体構成の基礎」（美術出版社）は、発想法に満ちており、今なお、デザインの基礎を学ぶ上で、貴重な内容となっています。

高山先生は、授業においても、発想・発想法を主題とされていました。

私が受けた授業を思い起こしますと、「建築計画Ⅰ」では、「乞食の家」という課題が出されました。ここでは、自由な主体をどう作り上げるか、ということが主たるねらいであったように思います。私たちは、どうしても結果を先に求めがちですが、そのまえに、自分自身が自由な主体であることがまず求められるということでしょう。「工芸科教育法」では、「デザイン論」の構築が求められ、とりわけ、「機能」について、高山先生は、四つの機能（1 物理的機能、2 生理的機能、3 心理的機能、4 社会的機能）に分け、それを図示し、その形からそのものの「在り方」が、とらえられるようにしました。

「発想・発想法」を自由な主体づくりとのかかわりで捉えたとき、高山先生の業績は、今日なお私たちに重要な示唆を与えてくれています。ありがとうございました。ご冥福をお祈りします。

（榎原弘二郎）

『日本美術教育研究論集』購読のご案内

公立ならびに大学附属図書館等において『日本美術教育研究論集』を購読されることは可能です。ご関係の図書館等で購読をご希望される際には、事務局までご連絡ください。

当年度発行の研究論集は、1部4,000円。その他バックナンバーは、2,000円となっています。また、定期購読を希望される場合はその旨お知らせください。

事務局便り

■平成28年度 ご寄附の御礼

昨年度、会員及び賛助会員の皆様にご寄附のお願いをいたしましたところ、計30,000円もの多分なご芳志を頂戴いたしました。この場をおかりして御礼申し上げます。

【ご芳名】(50音順／敬称略) 遠藤信也・林 耕史

■平成28年度 会員の異動 (敬称略)

入会者

伊澤 学・池田 吏志・大貫真寿美・小田 恵子・金阿 彌勉・菅野 綾美
北尾由紀子・齋上 康子・斎藤優美絵・佐々木敏幸・隅 敦・田中 圭一
田中千賀子・照沼 晃子・藤原 秀博・細野 泰久・前沢 知子・松田麻衣子
松本 有加・三浦 悦子・箕輪佳奈恵・茂木 克浩・森口 由美・守屋 建
八木 幸夫・矢澤 聡

退会者

坂井 旭・高久佳代子・竹澤美恵子・藤澤 英昭・ロザリオエスコバル

■平成28年度 郵送不在の方 住所変更がありましたら御一報ください。(敬称略)

佐藤絵里子・勅使河原君江・中村 仁美・村瀬 千樫

■平成29年度 (2017年度) 会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

平成29年度会費 6,000円 を 納入してください。

(公社) 日本美術教育連合 郵便振替 00170-1-86036
納入期限 2017 (平成29) 年 8 月 25 日 (金)

* 同封の振り込み用紙をご利用ください。(手数料は恐れ入りますがご負担ください。)

* 平成19年度より会費の納入をお願いしておりますが、会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。皆様からの会費で本会は成り立っております。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

▲ 3年以上の会費未納の皆様へ

* 平成26度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。

* 納入期限：平成29年8月25日 (金)

今回の納入のお願いと行き違いで納入済みの方には、失礼をお許しください。

■研究論集 図書館定期購読のお願い

* 私たちの貴重な財産であります研究論集を大学図書館等で購入していただけますよう会員の皆様からのご支援をよろしくお願いいたします。いくつかの大学図書館様に定期購入していただいています。本法人の安定した財政運営にもつながりますので、会員皆様のご協力よろしくお願いいたします。

■お問い合わせ先：事務局 東京家政大学 家政学部 児童教育学科 第7研究室

公益社団法人 日本美術教育連合 事務局長 結城 孝雄 迄

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1 東京家政大学

TEL+FAX 03-3961-5594 (研究直通)

E-mail takaoyuiki@icloud.com

【郵便振替】(公社) 日本美術教育連合 口座番号 00170-1-86036